

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に触れる場所へ法人の理念を掲げて意識統一を図っています。人を敬愛する心をもてるように会話の中にも実践しているようにしています。	理念について利用開始時に本人と家族に話している。玄関にも掲示されており職員間で話し合いの場を多く持ち理念の共有に努めている。またベテランと新人の職員が混在しているが、利用者と家族の気持ちを大切にコミュニケーションを取るようになっている。もし、理念にそぐわない言動があった場合には管理者と主任が助言するとともに職員と話し合い、利用者の満足する支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんを始めとする地域の方々へご相談や情報の提供をして頂き交流に努めています。また、幼稚園児との交流や自治会の行事、ボランティアの訪問などに参加しています。	区費も納め、公民館で行われる文化祭にもお誘いを受け一部の利用者であるが見学をした。また、区の行事である「しめ縄作り」にも参加し、毎年恒例のお祭りの子供神輿も来訪し利用者に喜ばれている。年2回の保育園児の来訪も継続的に行われており、楽しいひと時を過ごしている。ホーム便り「こもれ陽新聞」も地区の関係者に配り、ホームの活動を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け	見学者や問い合わせ、地域の民生委員の方へ事業所の生活の様子を紹介したり、利用者が予防教室などへ参加して地域の方々へ理解して頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容について職員会議や、家族会の席でご家族へ報告をして、改善の取り組みを行い資質の向上を図るよう努めています。	家族代表、区長、副区長、地区社協会長、地区民生会長、区民生委員2名、市介護保険課職員、地域包括支援センター所長、ホーム関係者により年6回、奇数月の第4火曜日に開いている。利用者の状況報告を行い、参加者からの助言・要望をいただき地域との繋がりの場としている。会議内容は職員会議で報告され、改善策等も話し合いケアの質を高めるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターへ助言を求めたり適切なアドバイスを貰いケアの向上に取り組んでいます。介護あんしん相談員の受け入れも行い、閉ざされた環境にならないよう努めています。	地域包括支援センター主催の研修会に参加している。また、利用者の状況等も相談し、助言をいただきケアに役立てている。介護認定調査は基本的に家族立会いでホームで実施している。あんしん相談員の来訪も月1回あり、行事に参加したり利用者と話したりして繋がりを持っていただき、その内容については口頭で報告を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者は、職員の研修の出席や理念を通して、身体拘束の理解が出来るようにしています。日中は緊急な事がない限り玄関は解錠して拘束しないようにしています。	ホームとして身体拘束排除宣言をし、拘束ゼロを目指した支援に取り組んでいる。玄関は開錠され離脱傾向の強い利用者にはこまめな声掛けをし納得するまで寄り添うようにしている。身体拘束については常に管理者より「問題を投げかけ」職員間で話し合う機会を多く持ち身体拘束のない支援を行っている。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の身体状況を把握して、日々、確認や会議を持ち軽微な事例も逃さないようにヒヤリ・ハットなどを沢山だし未然に防ぐように努めています。家族へも必ず報告して見逃さないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数名の方が制度を利用していますが、活用については、ご家族の判断や社会福祉協議会の制度を利用されている方です。職員へは知り得た情報の許す範囲内で関係者と話し合いや相談対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約内容、重要事項の内容を説明し、疑問などがないか、説明に不備がないかなど確認しつつ理解をして貰っています。制度の変更や報酬改定、業務の変更などについても理解が出来るように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に新聞を発行して、日常の様子を知られています。家族会や行事に参加できるように話し易い場を設けています。家族や利用者も運営推進会議へ出席してもらい、ご意見などを頂いて質の向上に努めています。	家族の来訪は多く、職員も感謝している。多い方は週3回来られ、直接、意見や要望をお聞きしている。殆どの利用者が意思表示が出来、それに対応することも職員のやりがいに繋がっている。家族会は年2回実施し、楽しんでいただきながら意見交換の場としている。誕生日会は2~3ヶ月に1回纏めて行い楽しんでいる。ホーム新聞も年3回発行し、利用者の様子などを載せお届けしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議で出た内容を、法人本部や施設長会議へ伝え検討するようにしています。また、事業所の職員会議なども行い意見交換を行っています。日常の業務の中でも職員の相談や意見に耳を傾け面接なども行い運営に生かしています。	2ヶ月に1回開いている全体会議で業務全体に関する意見交換を行い改善に繋げている。また、日々5分間ミーティングを実施し、事故報告や一日の業務の流れを確認している。職員は個人年間目標を立て業務を遂行し、自分の思いを込めた支援に取り組んでいる。必要に応じて管理者が個人面談を行い、職員の意見・要望を取り入れるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者と共に職員の勤務状況を把握し資格取得や研修へ参加を勧めスキルアップができるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人研修や系列病院研修、外部研修へ参加する機会を設け認知症への理解を深めています。感染症などの研修を行いシュミレーションをして緊急時の対応に備えるなどして取り組んでいます。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は同業者との研修や勉強会へ参加して、情報交換や交流をしていますが、今後も機会を設けて他事業所の利点など参考に取り組向上させていきます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みや相談があった時点で、ご家族や本人が困っていること、悩んでいる事などに耳を傾け、生活に対しての不安や要望などを丁寧にお聞きして今後の信頼関係を築いていけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心情や、本人の様子など伺いながらその立場になって傾聴や理解をし事業所としてどのような支援に繋がるか最善を尽くすように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望や生活の状況をお聴きして、利用に繋がる方が見極め、他のサービスの利用状況も確認した上で、今すぐに必要とされるサービスへの利用に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の自主性や気持ちを尊重し、意思の疎通を図り、お互いが認め合える関係を築けていけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族の訪問が多く開かれた環境作りに心掛けています。食事介助、外泊、受診など家族にも協力して貰っています。些細な出来事でも相談や連絡を取り、利用者が安心出来るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊、外出、知人宅への訪問、買い物など馴染みの関係が途切れないようにしています。	友人、親戚などの来訪があり、近所のお宅に伺いお茶を頂く利用者や同窓会に出席するために家族同行で出掛けた方もいる。利用者同士の繋がりもでき、お互いの居室を行き来している方々もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の人格や個性を尊重し、出来ている事、楽しめる事などを見極め、利用者同士が自然に受け入れられる関係作りを保てるように役割などをお願いしています。職員は気配り目配りをして、密な連携に努めています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活環境になっても、家族と手紙や電話などで遣り取りをして、現在の近況を伺っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、本人の思いや言葉を受容し、何を感じているか、表情や仕草などで推測して、気持ちに寄り添えるように努めています。	殆どの利用者が自分の想いを伝えることが出来、日々の会話の中で職員に伝えている。家族からの情報や日々の生活の中での「つぶやき」「仕草」等を職員間で共有し、一人ひとりの希望に沿えるよう取り組むと共に利用者も「職員を見ている」ということを絶えず意識し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在に至るまでの生活歴や、好む事、やりたい事、できる事などへ目を向けて慣れ親しんだ生活が継続できるように心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変わる心身の状況の記録を行い、アセスメントをし把握に努めています。ケア会議も行い、変更や見直しも状況に応じて行っています。また、24時間シートを作成して一日の暮らしが把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の実施や、ケアカンファレンスを行い本人及び家族から意向や希望、要望などを聴きより良い暮らしに繋がる介護計画に心掛けています。	職員1人で1人の利用者を担当している。状態に変化がなければ介護認定更新時と区分変更時に見直しを行っている。アセスメントシートを作成しケアカンファレンスで検討を加え、短期の評価は3ヶ月に1回、長期の評価を6ヶ月に1回行い、家族へも報告し、また、意見をいただき現状に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中の気づきや、出来事を記録し職員間で情報の共有をしています。再アセスメントを行い、変化に応じた介護計画の評価と見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の介護予防教室への参加や、定期的に音楽療法を行い機能低下を予防しています。専門職による訪問マッサージ、口腔ケア訓練を受けている方もおり多様なサービスに繋がるように支援しています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や社協の情報提供や、民間の介護サービス事業者などから紹介して貰ったり、新聞や情報誌などの収集に努めて活用できるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人と相談の上で、かかりつけ医、協力病院へ症例に応じた受診対応を支援しています。家族が対応できない時は看護師や、職員が対応して連携をとり、受診の結果を家族や職員間へ報告し周知を図っています。	利用契約時、本人や家族にホームの協力医があることを説明し、希望を聞くようにしている。殆どの利用者は当ホームの協力医で受診をし家族にも状況報告を行っている。また、現在、数名の利用者が利用前からのかかりつけ医に家族と通っている。当ホーム専属の看護師が週4回来訪し健康管理を行い、適切な医療が受けられるよう医師との連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、日常生活の健康上の不安や処置方法など健康管理に不安が生じないように把握しています。職員は報告や相談をし適切な助言を貰い連携を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、家族の不安が大きい事を加味して、看護師や職員ができる限り付き添いを行っています。早期の退院に向け医療機関と連携を取り、家族や、主治医等と担当者会議を設定して身体状況の把握をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針について事業所としての説明を家族へ行っています。終末期の相談もあり、話し合いを持ち取り組んでいます。	利用契約時に終末期についての指針を説明し、出来る範囲で取り組んでいる。本年3月に最期を迎える寸前まで当ホームで生活し救急搬送されお亡くなりになった利用者がいた。最期に近づくほど激痛が走り大変な支援であったが職員全員がそのことを受け入れ取り組んだ。そのような中、3月生まれの利用者であったので誕生会を実施した。苦しい中ではあったが本人や家族から感謝されたという。今後もこの貴重な経験を活かし、本人や家族に寄り添い、出来る範囲での支援に取り組んで行く意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救命救急法の講習を受けています。看護師からAEDの使い方や応急処置の方法を学び、実践に活かせる様になっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、通報の仕方、誘導方法、消火方法など確認をしています。防火管理者が主体になり、夜間の誘導方法なども確認して非常時に備えるようにしています。各事業所間でも協力体制を話し合い行っています。	防火管理者が計画を作成し、年2回防災訓練を実施している。通報訓練では実際に消防署へ通報している。利用者も全員参加で日中想定避難誘導を実施している。夜間想定が未実施あるので「ぬきうち」で実施する予定もある。現状、水、食料の備蓄が不足気味なので増量するよう進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念に掲げてある、尊厳のある暮らしが守られるように、すべての業務の中で実践できるように心掛けています。職員は互いに指摘し合えるように会議の中で話し合いを行っています。	呼び名は理念にある「尊厳」と「敬愛」の気持ちを大切に苗字と名前にさん付けでお呼びし「トイレのカーテンを必ず閉める」とか「職員同士の話声の大きさに気をつける」などの細かいことに配慮し、プライバシーが守られ安定した生活が送れるよう心掛けている。接遇研修を年に1回受けケアに活かしており、職員間での話し合いも活発で高い意識を持って利用者に接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、声掛けや行動する際、焦らせずにゆっくりと待ってその気になってから行動できるようにしています。意思表示が難しい方は表情や反応を読み取れるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思の疎通が取れるように言葉掛けを多くし、職員の都合や、押し付けにならないように、会議を行い、その日の様子を振り返るようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や、季節を感じた装いに声かけを行い、その時に見合った服装と一緒に選んでいます。本人が選択しにくい方はご家族へお聴きしてアドバイスなどを頂きその人らしい服装や身だしなみに心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々に、地域にある昔から伝えられた食物や、行事食などを手作りしています。好みや味付けなど利用者と共に協力して作り、楽しく食事が取れるように努めています。	家族より野菜やおやつ、お菓子などを沢山頂き、頂き物ノートを付けるほどである。献立と調理は職員が交代で担当している。利用者も自力摂取の方が70%ほどで、一部介助の方と全介助の方が数名と差があるが、食べるスピードも違うこともあり、食べ易い物を出したり何回かに分けて出し、食事が楽しく、また、残さず食べることが出来るよう支援に工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を中心にバランスの取れた献立を作成し、食事形態、食物繊維の多い食品や脱水予防に心掛けています。主治医と連携をとり、体調によっては受診して適切な指示をもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方、介助が必要な方、それぞれの対応をしていますが、協力歯科医師の適切な助言や指導を受け清潔が保てるようにしています。個人的に歯科衛生士によるリハビリを受けている方もおり、皆で取り組んでいます。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化しているも、日中は、殆どの方がトイレで排泄を行っています。できる限り自立できるように尿サインを読み、布パンツへ変更しています。	排泄については支援の中で最重要と捉えて取り組んでいる。職員全員が先ず「自分だったら」という気持ちを常に持ち、出来る限り自立出来るよう取り組んでいる。持てる力には差があるが出来るだけ「布パンツ」にこだわり、排泄チェック表を基にパターンを掴み情報を共有し、プライバシーを守りつつ一部介助、見守りも含め、トイレで気持ち良く排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品などを摂取し、体に負担が少なく便秘を解消したり、体操や散歩をすることで予防に心掛けています。改善が難しい方は主治医と相談し、下剤などの薬を処方して貰っています。家族からも提案など貰い取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴用剤や風習などを取り入れ季節が感じられ、入ってよかった、すっきりしたと、思っ貰えるように努めています。入浴を好まない方は、時間をお聴きしながらその気になった時に入浴できる工夫をしています。	基本的には週2回入浴していただいている。希望があれば他の日も対応し気持ち良く過ごしていただくよう心掛けている。自力の方が数名、一部介助が8割近くで、全介助の方が若干である。入浴を嫌がる利用者もいるが言葉を変えたり人を変え入浴へと導いている。また、入浴を楽しめるよう入浴剤やゆず等を使い香りも楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を踏まえ、日中は外出や、日光浴など外気に触れ体内リズムが整えられるように心掛けています。眠剤使用者は睡眠状況を把握し主治医へ相談後、調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に看護師が薬の管理を行い、指示を仰ぎながら職員は処方された薬について申し送りや記録をして、薬の効能や副作用などについて詳しい情報や知識を得るようにします。薬の調整については看護師、主治医へ相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や出来る事へ目を向け、食事作り、折紙、縫い物、などを行っています。意欲が見えたらそれに対して直に対応できるように職員へ伝えていきます。役割を持つ事で、共に気分転換が図れるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の意向をお聞きしながら、買い物や戸外へ散歩にお誘いし、ミニ菜園作りを楽しみ献立に利用しています。遠出の外出日も設け、花見、紅葉狩り、外食なども定期的に行い、今年は善光寺のご開帳へ全員で行き少数ですがご家族も参加して参拝をしました	自立している方が半数、杖・手引き歩行・押し車の方が若干名、車イスの方が三分の一という状況である。天気が良ければ利用者の希望に合わせ外気浴を兼ね散歩したり、近隣の大型ショッピングセンターに出掛けたりしている。年間外出計画は職員が企画立案し実行している。本年は善光寺御開帳があり家族も一緒に出掛け、春には城山公園、川中島古戦場にお花見に行き、秋には小布施へ紅葉狩りに出掛けるなど、楽しい1日を過ごしたという。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は少額ですが、財布を持ち自己管理しています。支払いの時は職員が確かめながら本人に出して貰っています。施設の買い物の際も利用者にお金を渡しお金への意識と大切さを忘れないように支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次ぎ、事務所や、自室で子機を使用してプライバシーが保てるように配慮をして居ます。知人や家族からの手紙も返事が必要なときは自由にやり取りが出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの共有部分は行事や季節に併せた装飾や適温に心掛けています。	建物は改修型施設ということで1階と2階で若干雰囲気は異なるが、全体的にはゆったりと落ち着いた雰囲気が漂っている。共用部分では利用者が会話をしたり、テレビを見たりしてくつろいでいる。冷暖房はルームエアコンで行い適温が保たれている。浴室は職員2人で介助出来るよう広いスペースがあり、トイレも広く、カーテンでプライバシーが保られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんの集まる食堂は、狭い空間でトラブルが起きないようにその時々で配慮して、パーティションを活用したり、好みの音楽を流してゆったりとした環境が作れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と話し合い、仏壇やテレビ、衣装ケース、ベットなど在宅で使用したものを持ち込み生活をしていただいています。ご本人が慣れ親しんだ物品を飾るなどしてその人らしく生活が続けていけるように配慮しています。	広いスペースが確保された各居室には大きなクローゼットが配置され、よく整理整頓され清潔感が漂っている。本人が使い慣れた物が持ち込まれ、写真等も飾られ生活感が感じられる。また、利用者同士の行き来もあり慣れ親しんだ環境で穏やかに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に応じた対応をしています。必要な用具、器具等は職員で話し合いを持ち決めていますが、家族へも相談して協力を得ながら検討して安全に生活ができる環境作りに心掛けています。		